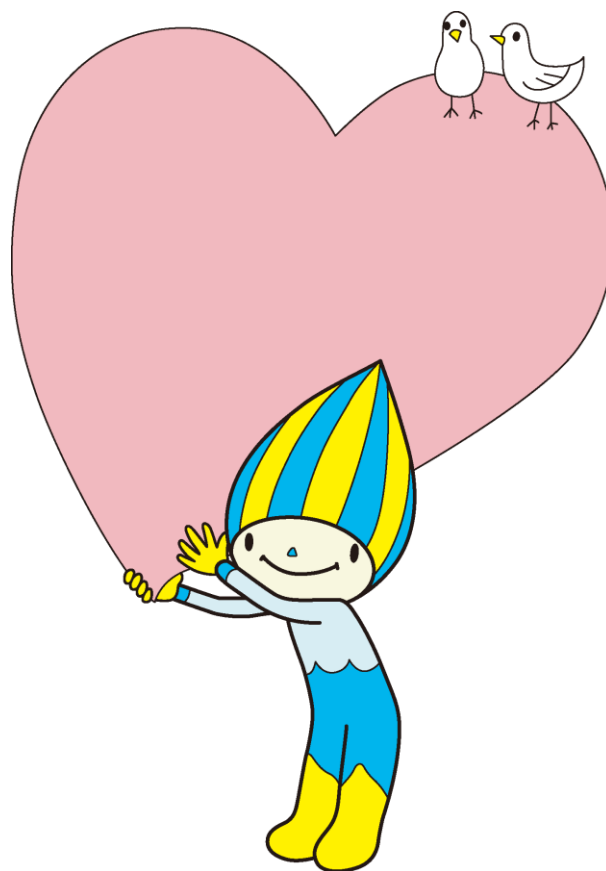


支援をつなぐ ～事例編～



就学前→小学校



本人	年長。外国籍。長い間帰国して、来日して1か月ほどである。
家族構成	母（外国籍）、本人
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭では、母国語で話す。 ・就園はしていない。託児所で、好きな遊びをしている。 ・食事は自分では食べず、口に運んでもらう。 ・興味のあるものが目に入ると、座ってられない。 ・日本語での指示がわからないことが多い。
本人・保護者の願い	・地元の小学校の特別支援学級へ就学させたい。

本人への支援

- 療育機関
- 医療機関
 - ・生活環境の違いが要因なのか、発達が要因なのか明らかにするため、発達検査を依頼する。

- 中央子ども相談センター
 - ・療育手帳の取得について尋ねる。

- 療育機関
 - ・身辺自立のための訓練や、家以外の集団生活の体験について尋ねる。

- 市町子育て担当課
 - ・保育所、幼稚園等への就園手続きについて尋ねる。

園・学校への支援

- 就学区域の特別支援学校
 - ・センター的機能を活用し、支援の在り方等助言を受ける。

- 市町教育委員会
 - ・適正な就学に向けて、発達支援専門家チームに巡回を依頼する。
 - ・日本の教育について、保護者への説明を依頼する。

- 市町福祉担当課
 - ・日本の教育や子どもの発達について、母国語で伝えてもらう通訳者の派遣を依頼する。
 - ・日本語を習得できる場について尋ねる。

保護者への支援

- 市町教育委員会
 - ・市町行政の他課との連携や、保護者の相談窓口の確保について相談する。

- 市町健康推進課
 - ・予防接種や成育歴等を確認する。

- 市町子育て担当課
 - ・発達相談会の日時、内容等、情報を得て、保護者に紹介する。

- 市町福祉担当課
 - ・把握している生活状況から、必要な支援について尋ねる。
 - ・障害福祉サービスについて尋ねる。

- 大学等
 - ・学生ボランティア通訳を活用する。

日本語の習得

小学校→中学校



本人	小学校6年生。通常の学級に在籍している。
家族構成	父、母、本人、弟
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・学力は小学校1年生程度。 ・コミュニケーションが苦手（距離感がつかめない。暴言を吐いてかかわろうとする。不安になるとかたまる。心と裏腹なことを言う。） ・初めてのこと、抽象的なことは理解できず、課題から逃げる。（その場からいなくなる） ・排泄（大便）を失敗するときがある。
本人・保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、中学校でも通常の学級への在籍を希望。「やる気を出せばできるのでは。」 ・自動車運転免許がとれる学力をつけさせたい。

本人への支援

- 校内ケース会議
 - ・ケース会議に参加してもらうSC、特別支援学校のコーディネーターには、事前に本人の様子を見る機会を設ける。

- 医療機関
 - ・医療機関を紹介し、発達検査を勧める。
 - ・有効な支援について、医師からの助言をもらう。

- 中央子ども相談センター
- 岐阜県立希望が丘こども医療福祉センター
 - ・発達にかかわる相談について、保護者に紹介する。

園・学校への支援

- 就学区域の特別支援学校
 - ・センター的機能を活用し、支援の在り方等助言を受ける。

- 市町教育委員会
 - ・適正な就学に向けて、発達支援専門家チームに巡回を依頼する。

- 中学校との連携
 - ・中学校の特別支援学級の見学をする。小学校だけでなく、福祉課、市町教育支援委員会のメンバーも同行する。
 - ・特別支援学級に在籍していた卒業者の進路、自動車運転免許取得の状況等の情報を提供する。

保護者への支援

- 市町教育委員会
 - ・市町行政の他課との連携を依頼する。

- 市町福祉担当課
 - ・ケース会議で話題になった保護者への支援について伝え、助言を受ける。
 - ・福祉課にある自立相談窓口を保護者に紹介する。
 - ・地域の民生委員からも情報を得る。
 - ・発達支援専門家チームのメンバーとして巡回した情報を共有する。

将来への見通し

中学校→高等学校→進学（就職）

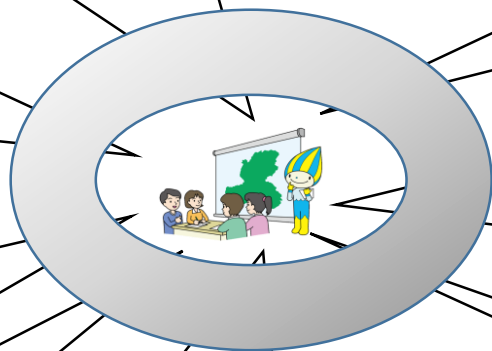


本人	高等学校1年生
家族構成	父、母、本人、妹
本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・読書が好き。アニメ番組を視聴しており、セリフを記憶している。 ・定期試験では高得点を獲得する。 ・新しいことへの不安感があり、ストレスに感じることが多い。 ・読書は好きだが、物語の登場人物の心情の読み取り、感想文は苦手。 ・中学校では仲間の理解があったが、進学し、周りとのかわりがうまくできず、不登校の傾向。
本人・保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・（本人）親元から離れて生活し、進学したい。 ・（保護者）進学し、就職して自立してほしい。できることを増やしてほしい。

本人・保護者への支援 自己理解

園・学校への支援

支援の引継ぎ



○教育支援センターG-プレイス （適応支援教室）

- ・見学・相談・通室希望等を電話申し込みをする。
- <支援内容> ・学習支援・進路相談
・教育相談・適応指導 等

○就学区の特別支援学校

- ・センター的機能を活用し、支援の在り方等助言を受ける。

○中学校

- ・中学校ではどのような支援を受けていたのか情報を集める。
- ※個別の教育支援計画はあったか。

○医療機関

- ・発達検査を勧め、自分の特性を理解できるようにする。自分に必要な合理的配慮を知り、自分から伝えられるようにする。

○校内教育支援委員会

- ・本人の特性、つまずきを把握する。
- ・学力だけでなく、最終的に目指す姿を明確にもち、今できる支援を考える。
- ・SC、SSWと連携を図る。

○少人数コミュニケーション講座

- ・保護者に講座の案内、説明をする。
- ・専門家による指導・助言を受け、受講の必要性、指導内容について検討する。

○岐阜公共職業安定所

（ハローワーク岐阜）

- ・就職プログラムを活用し、就労で心配されることを相談する。（高等学校第3学年から相談することができる。）

○大学等

- ・大学で受けられる支援について、オープンキャンパスで生徒とともに情報を集め、進路選択に生かす。